

第2章 考察

【本チームプロジェクトのもたらした効果の質と範囲】

《バリ牛普及事業》

仔牛を産み頭数が増えることが住民にとってバリ牛事業のもたらす最大の効果であることが、本評価会議を通して理解された。逆に言えば、仔牛を産んでいなければ効果はないと考える住民もいると予想される。しかしこれはまだ本事業が5年貸与計画のうち3年が過ぎたところであり、実績を求めるには時期尚早であることに加え、もともと貸与された牛が初年度から仔牛を産むには若すぎたことを考慮すれば、この点において効果を感じられる受益層が今後どこまで広がるのか、また仔牛を産まないでも5年を終了したら何か効果と呼べるものがあったか判断はつきにくい。

それ以外の住民の興味には「個体重を増やす」「病気にしない」「死なないようにする」といったものが挙げられ、それと直接結びつく形で“JICA へのお願いこと”として「ビタミン剤の投与」「虫除けスプレー噴射と予防接種」「予防接種及び治療の実施」が要求されていた。この点に関しては、今後の事業継続性を鑑み、県家畜事務所にとって多大な負担にならないよう、最近では投与を控えている、又は住民に買い取らせる方式をとっているようであるが、たとえ投与を控えることで住民の直接的なニーズに応えないとしても、自らのニーズを実現するツール（対象機関ではなく、対象物）の存在を知るようになったことは、本事業の与えた効果の一つに数えてもいいだろう。

また牛舎飼いやへの欲求、すなわち慣行肥育法を変える必要性を感じた農民が何人か出てきているということも、本事業が直接的にもたらした効果ではないのかもしれないが、より好ましい肥育形態を考える上で、JICA の存在とその日々の指導がある一定の影響は与えたということが可能なのではないだろうか。

《山羊銀行プロジェクト》

プロジェクトによってもたらされた効果として、住民が現在までに感じとっていることは主に知識面のことであった。この点については既に活動が中断している外集落でも同じように、肥育知識は向上したと認識されている。住民の認識において効果と感じられている知識が果たして本当に正しいのかを、会議の場においてチェックしてみたが、実際に適切な回答が返ってくるが多かった。

また、雨が降れば山羊を小屋の中に入れるようになったという答えが多く、ただ単に知識の面だけでなく習慣も変化してきている（させようとする意思はある）ことが確認された。しかしこれは現実問題としてまだ疑わしい点も多いので、小屋に入れなければどうなるかという事例も交えながら、対象住民の全てが習慣づくよう引き続き指導していくとよいと思われる。

本事業は対象住民に女性が中心として選ばれ、女性の役割を変化させていくこともねらいの一つとして掲げられているが、その点について今回の評価会議でははっきりとした情報を掴むには至らなかった。むしろ外集落において、「女性は敷地内での事業が適している」「敷地外のことは男性に期待してしまう」

といった発言があったことから、少なくとも意識の上で表れている効果はまだ微少であるということが言えるかもしれない。但しこうした発言も含め、今まで会議の場で前面に座って発言をする機会の乏しかった彼女たちが、自分の意見を言うようになったことは、その前段階には月例会を持ち、女性を集めて女性の会合を行ってきた努力が実りつつあるのではないかと、ということが言えるだろう。

またこれは効果ではないが推測される事業インパクトとして、グループ単位で行う活動への印象づけがある。例えばゲルゲ集落のように、活動が概ね順調に進んでいる集落では、システムへの適応段階で心理的にも受容可能であることが認識され、今後グループ活動を導入しても大きな拒否反応は当面起きないと考えられるが、ワリの場合は既にグループ活動を全面的に支持する意識はなくなっている。これは会議の最中に「今後どのようなプロジェクトがあったらよいと思うか、またそれらがグループ活動でも参加するか」という質問を行った時、「これはこういう理由でグループは適していない」という意見が活発に挙げられたことである程度まで理解される。勿論、今回の山羊銀行があつて始めてこうした意識になったわけではなく、元々住民の考えの中にはあつたものが、さらに今回の経験で強まったのではないかとと思われるということである。

《新種野菜普及事業》

新種野菜普及事業でメロンを扱うことの目的の一つには換金性の高いことがあるが、この面において今回の栽培は上述のように諸種の理由で成功せず、換金されなかったのであるから、効果はなかったのかもしれない。住民もそれを敏感に察知しており、満足度評価ではあまり高い点数は得られなかった。

しかし、事業に参加した住民の一人からは「メロン栽培は確かに失敗した。でもメロンの栽培方法はもうわかったかから、それが成果だった」と述べられており、栽培指導の効果が確かにあったことが確認された。

また住民がメロンという全く新しい野菜の存在を知るという観点から見ると、今回の受益者に限らず、受益者の住む集落の他住民からも自分に教えて欲しいという反応を得たことは、本事業のもたらした効果に含めてよいだろう。さらにこのことはメロンに限らず、今まで自分で挑戦したことのない新種野菜（唐辛子・赤分葱・生姜など）への栽培興味を増進したという意味で、一定の寄与を果たしていたことが窺える。

農民にとっての直接的な効果には、もう一つトラクターを利用することができたことが挙げられた。これはおそらくプロジェクトにとっては、メロン栽培という目的の為の手段としてトラクターを貸与した事実以上の意味はもたらさないが、農民はトラクターを利用する利点を既に熟知しており、それが実際に使用できた心理面での効果（満足）があったことが示されているといえるのではないかと。

《落花生優良種子普及事業》

落花生優良種子普及事業に関しても、事業目的である「優良種子を栽培し、それを普及する」観点からは事業効果があったとはいえないが、既に農民にとっては馴染みの深い落花生栽培において、新規技術

(石灰・肥料)を採用することの意義はあったのではないかと推測される。今回の評価会議の最中にも幾度となく「石灰・肥料を利用できたことがよかった」という意見が寄せられた。これは実際は今後の栽培時にも「石灰・肥料を利用することが増収の決め手だ」と印象づけることだけに終わってしまったのかもしれないが、続く道としてこのような新しい取り組み、栽培努力によって既存の技術を見直していくことにより、増収が可能になるかもしれないという一つの方向性を指し示したこととして、より評価されうるだろう。

また同じように、もともと住民ニーズとして高かった「優良種子の導入」が、実際の農家レベルで実現されてこなかった経緯には、勿論それが高価であるということもあるが、それを入手する手段とそれを入手した後の利点が見えにくかったのではないかと考えられる。今回の経験においては、入手した利点を実際に肌で感じるまでには至らなかったが、農家の収入を向上する一つの方向性としては受益者によく受け入れられていたということが、相変わらず「私たちは優良種子を使って落花生を栽培したい」という発言がされていたことから窺える。

さらに、事業参加時の期待と照らし合わせて、達成された効果として住民が選択したものの中には「商人よりも返却率が良かった」ことが挙げられた。これは試験栽培に参加してもらう農家にリスクを負わせないためにとられたシステムであるが、こうしたことがより直接的には見える効果として、歓迎されやすいことが理解される。

《農民研修事業》

農民研修事業に関してその積極的な効果を意味する発言は今回の評価会議の中では見られなかった。今回の会議では全対象者の一部が参加しただけであるので、早計な意見を提示するのは控えたいが、効果の見えない事業に期待ばかりが高まるという意味では次のようなことが言えるのかもしれない。

それは過去の研修時には参加農民に対して日当が支払われており、参加者はそれを貰うこと自体を研修参加の目的の一つとして持っているのではないかと、ということである。実際のところこうしたインセンティブは歓迎されることこそ多いが、拒否されることは少ないので、喜んで受け入れられたのであると思うが、もしもそれ自体が目的となっているのだとしたら、事業意図とはかけ離れた結果を生みやすくなってしまいうだろう。その場合には効果も期待するほど得られないことは想像できる。

但し、もしこれが事実であったとしても、農民研修事業を実施した波及効果の一つに挙げられることとしては今回の評価会議中に女性から「女性も研修に参加したい」という発言があったことがいえるだろう。「あぁいいな」がただ単に「お金も貰えるしいいな」で終わっているのではなく、「女性もできる養鶏について、学びたい」という姿勢に行き着いているのは、ジェラシーが生み出した一つの問題意識であり、その意味で農民研修事業を実施したことも支持されると思われる。

また住民に与えた心理的効果（満足）については、参加者には比較的高い満足を、不参加者には低い満足をもたらしていることが今回の会議では理解された。

《市場修復事業》

ハードを伴う事業では、その効果はハード自体の持つ特性に委ねられる面も多く、例えば市場修復事業の中では、「販売人が増えた」「売り場が活性化した」「取り引きが円滑になった」などが住民にとって効果として認識されたものであった。

今回の評価会議では、プロセスとしての協働や一部拠出金負担、いわゆる住民参加型開発は住民自身が判断する効果には挙げにくいことが確認されたが、「協働は楽しかった」と答えた参加者もあり、こちら側の意図とは別に、プロセスの持つ効果があったことが窺えた。ここでいうこちら側の意図とは例えば所有者意識であったり、建設後の維持・管理であるが、こうしたドナーサイドにとって意義のあることが、直接村人にとっても意味があると感じられるかといえば、そうも言えないということである。

ただ、市場の汚れについて発言があった時に、「では毎週金曜日のモスクでのお祈り時に、清掃の実施を発表し、皆でその週の土曜日に掃除をするというのはどうだ」という提案がなされ、それは結局他の話の中で様子消されていってしまったのであるが（ちなみに他の問題—例えば囲いをつくるといったものは、自分達でどうしようという発言はされなかった）、こうした提案も個人の倫理観に加え、プロセスが与えた所有者意識の表れであると捉えるならば、やはりプロジェクトにとって意義のあるものであったし、また住民にとってもよりよい村の発展を考える上で、重要な経験であったのだろうと推察される。

また「昔は掘って建て小屋だったものがやっと市場になった」という発言、「皆の重要なことなので」という参加動機から理解されることは、以前の状態に満足しきっていなかった住民が、現在の状態に移行したことを喜んでおり、これを心理面に与えた効果としてよいだろう。

《灌漑事業》

灌漑事業でもハードに伴う特性「収穫は増加した」点について、住民によって効果が認められた。また建設知識が向上したということも住民の感じた効果であった。

実際はさらに議論を深めていけば、事業としてもたらした効果のほどが、より理解されたのであろうが、灌漑事業に関しては問題を指摘することに時間が割かれ、今回の評価会議を通すだけでは、把握できない面も多かった。

《生活用水事業》

生活用水事業についても「安定的な水が確保できた」という効果はハードの持つ特性であり、それは事実として住民に認識された効果であった。またそれに付随して「水汲みに要する時間が削減された」という意見も出され、当該地域において、主には女性と子どもが受け持つ家事労働を削減する意味で、効果が認められた。

心理面に対して与えた効果（満足）としてはこちらが思ったほど高い点数を住民がつけているわけでは

なかった。この原因としては生活用水施設のような私的利益の性格の強い建築物では、それが当初ない状態からある状態に移行した時の満足感と、ある状態に慣れてもっと便利にと感じている時の満足感には違いがあるということが想像され、評価会議を実施したのが後者に該当する時であったため、満足が低かったのではないと思われる。現にバンガ集落の評価会議では水が十分に行き渡る区域と行き渡らない区域に二分されることが指摘され、前者の平均満足度は9近くあったのに対し、後者は3前後であった。よって生活用水のような場合には、同じ水施設の建設によっても、実際の水利用状況によって、住民に与えた心理インパクトは異なってくるということがここではいえるだろう。

プロセスについては市場修復事業同様、住民参加型をとり、計画段階から住民も関わってきたが、このことが効果として住民に認識されるには至っていない。しかしながらベレリボ集落で実施した会議では、現在の水使用状況を参加者同士意見交換する過程で、「ここからここは 1.5inc の鉄管だからどうだ」とか「ここはこういう構造になっているからそれでは駄目だ」というような発言をお互いがしており、維持・管理が技術的問題によって阻害されるということはないことが確認された。

所有者意識醸成という面では今回の評価会議を通して、はっきりとした情報を掴むにはいたらなかった。

また先の満足度に関して言えば、住民参加型プロセスを経ることで、結果としての構造物も住民の望むような形で作られ、その分満足度は高くなることが期待されたが、今回の会議ではそうした情報が見当たらず、住民の満足度は現在の水利用状況による方が大きかった。

【今後の課題】

《バリ牛普及事業》

問題として出された事柄の多くは、JICA へのお願いごととして置き換えて捉えることが可能であるが、それらのうち適正なお願いと判断され得るものは、住民の意見として汲み上げ、その要求に応えることも必要となってくるだろう。

「自分は貸与されていない」とは正にここの住民のいいやすいことであるが、この点に関しては現行システムについての説明と、返却された牛が今後他農民に再貸与されていく図を示せることが理想的である。そうすれば、貸与される可能性の少ない農民は、下手な期待を他者（JICA・県家畜事務所）に対して行うのではなく、自らの想像力と資本を持って、牛を買うことが適しているか、適していないか、もう少し現実的な判断をするようになってくると思われる。

またバンガバンガエで行われた評価結果からは、何人かの農民は現行の肥育法の利点を強く感じており、それを変更することは望んでいないことが確認された。一方で、他集落の中には部分的に牛舎による肥育を希望するものもいた。よって、今後はさらに慣行肥育法の利点と限界、及びそれに対する村人の要望を他集落でも聞きとった上で、一律的な技術を導入していくのではなく、状況に応じた対応が迫られてきそうである。

但し、慣行肥育を行っている限り、仔牛を産むための人的努力は行にくい点も事実であろうから、こうした農民に対しては、仔牛を産むための肥育に重点を置いた指導を行うのではなく、個体重を増やすため、

牛が死なないためには日頃どのような点に気をつければよいか、ということを指導していくのが適しているのではないだろうか。

また今回の会議の中では触れられることがなかったが、南スラウェシ州全体を見渡した牛の市場動向なども把握し、適宜情報開示していくと、農民にも喜ばれると思う。

《山羊銀行プロジェクト》

今回挙げられた事業効果の一つが知識向上であることは既に述べたが、住民がまだよく理解していない知識としては、「山羊の妊娠期間に関すること」「山羊に役に立つ草の種類」「山羊市場に関する情報」の3点があげられるので、今後の展開の中ではこの3点を含めた講習会を実施したり、或いは日頃の巡回指導の際に適宜、説明していくとよいと思われる。

また外集落で挙げられた問題のいくつかは、貸与システム変更にもなって解決されていると考えられるだろう。

① 共同飼育がよくなかった

→ 雄山羊のみが共同飼育であり、雌は個人飼育が可能となった

② 導入された山羊自体がよくなかった

→ 現在は貸与山羊を JICA が選ぶのではなく、住民が自分で選べるようになっている

③ 個人の利益が見えにくかった

→ 個人飼育の雌山羊から産まれた仔山羊は個人のもとなる

残されている問題としては、

④ 山羊がよく死ぬので、管理に飽きてしまった

⑤ 十分な草がなく、管理が難しかった

の2点があるので、この点については注意が必要であるが、このうち④は常に注意をしているのにも関わらず発生してしまっている問題なので如何ともし難いところもあると思われる。⑤に関しては実際他集落と比較して、著しく外集落では草が少ないわけではなく、住民のいい訳の一つであったかもしれないが、しかし「心理的に管理が難しいと感じていた」現象については、見逃してはいけないところであろう。こうした現象は一つのことだけが理由で発生するのではなく、多くの要素が絡み合っただけで出来上がるものだから、おそらく草以外にも理由があつたことだと思われる。

その理由の一つに外集落では、お互いがお互いに期待をしあい、結局のところ誰も責任を負わないか、一人が過重な負担をすることになったということが住民から挙げられた。さらには家事をすることが当たり前の女性にとって、敷地外で管理をしなければいけない山羊は不適當であったことが指摘されている。こうした事情について、事前の段階で社会分析調査を行うことが望ましいことは明らかであるが、たとえ調査を伴わないとしても、例えば試験肥育期間などを設け、住民の意思を再確認するようなプロセスを踏んでみてはどうだろうか。（この際には試験期間中の住民の対応を見て、こちらで勝手に中止と判断することはなるべく避け、あくまでも住民が続ける意思を持っているかどうかを確認するもの）

《新種野菜普及事業》

住民から挙げられた問題のうち「自分はまだメロン栽培を知らない」という件は、導入期である現在はまだ仕様がないうところである。むしろ対象集落の中で、何人かでもメロン栽培の利点を知った人を養成するために、今後は対象層をさらに絞り、しかし成果を上げていくことに専念した方がよいと思われる。その後彼らを通して、順次普及されていくプロセスを支援していけば、結局は目的に達するのではないだろうか。

また「種子がよくない」ともよく言われたが、これは再考の余地がある。メロン栽培についてまだ経験の少ない住民達が、その場で最良の種子を選択することが可能であるとも思えないが、例えば種子を購入する際に住民も連れて行き、彼らにポイントを説明しながら、最終的に彼らを選ぶという形にすれば、「種子がよくない」ということが「JICA もっとしっかりしろ」ではなく、「次はどうしよう」という自らに帰せる問題意識へと変化していくと期待される。また現在使用中の種子は在イ外の物も使用しているが、今後住民達が独自で展開していくことを考えれば、国内でも調達可能な種子を使用することがよいと思われる。

「農薬や肥料」はそれが万能薬にはなりえず、ただ沢山使えばよいというものではないから、現在進んでいる使用計画を農民にもわかりやすく説明すると誤解も生まれにくくなるだろう。

「他の作物の試験栽培」と「市場情報の提供」及び「土壌試験の実施」「メロン栽培時期の見直し」という住民からの解決案は、トータルな流れとして再考する必要があることを示しているといえる。例えば野菜に関していえば、やはり土壌条件との適合性やそれによる施肥計画、栽培適期が作物別にあるので、対象集落の土壌をサンプルとして用いた試験栽培を実施することが可能であれば、理想的である。また作られた作物はこの新種野菜普及事業においては、自家消費されることを直接の目的としているわけではなく、市場にて販売・換金することが目的である以上、野菜の季節毎の市場動向についても適宜情報収集し、住民に開示することが必要であろう。但し、前者についていえば、試験栽培を実施できる環境が用意されておらず、またそのための人材も不足しているのが現状である。よって、これは担当者である渡辺（竜）隊員の経験による最上の判断に頼り、受益者である住民達が自分で経験していくほか、手はないと思われる。但し、その判断の際にも、できるだけ住民の意向を汲み入れ、双方の合意の下に作物と栽培時期を決定していくのであれば、問題は問題として残るが、問題に対する不満は解消されていくのではないかと。この点に関してさらによりよい選択は、現在建設中である育苗所の完成を待ち、その運営法を考えていくことであると思う。

《落下生優良種子普及事業》

落花生優良種子普及事業は、事業として中断しているために、今後の課題について触れるのはあまり適当でない。今回の教訓については食用作物分野の田谷隊員による事業報告書を参照されたい。

一つだけ報告者の見解を加えるとすれば、今回の評価会議によって明らかになったことは、落花生優良種子事業が、住民も感じる認識上の問題、また現実レベルで発生している問題などを含めても、住民にと

っては相変わらずニーズの高い事業であり、事業自体は十分な妥当性を有していたということである。継続が不可能になった理由は、栽培技術・環境上の問題も確かにあったのだが、より解決できにくい問題として残されていたのは普及システムの方であったのではないだろうか。

よって、今後食用作物分野で展開が予定されている赤分葱事業において、栽培過程で発生する問題に対しては、農民の意見をできるだけ汲み取りながら、認識上の問題を減らし、かつ運営システムはできるだけ簡素にしていくことがよいと思われる。

《農民研修事業》

農民研修事業は、本チームプロジェクト内の独立事業として継続される予定は現在のところまだない。しかし、食用作物分野の赤分葱事業の一環として、研修が予定されているので、そこでの参考になるように、今回の結果をもとに考察してみたい。

今回の評価会議では、住民の研修事業へもつ高いニーズがどのような要素によって成り立っているのか把握しきれなかった。先ほども述べたが、これが研修内容への期待なのか、研修に参加すること自体またはそれにとまらぬ日当への期待なのかによって、結果的にもたらされる効果には大きな隔たりが出てくる。この一つの代替案は日当を失くすことであり、それは評価会議後に、チーム内でもたれた定例会でも話題になったところである。田谷隊員は現在日当という形での供与ではなく、研修期間中に取得されえない収入の補填という形で渡すことを考えているようで、その形式には基本的には報告者も賛成するところであるが、それが単に形式の問題ではなく、実質的な意味を伴っていかなければ、受け取る住民にとっては同じこととなり、相変わらず研修参加の動機が把握されないままである。そしてそれは結局、事業結果にも影響を及ぼすだろう。

渡すお金に実質的な意味を伴うためには、やはりそれに一定の責任も付加していくことで、参加する農民の事業内における位置づけをきちんと提示していくことではないだろうか。

「女性も研修に参加したい」という意見も本評価会議中に挙げられたが、そこでは女性の望む研修内容は養鶏であった。既存の農民グループが主に男性によって成り立ち、赤分葱事業がそうした農民グループを対象に展開していくことが予定されている以上、次の研修に女性を参加させることに意義がでてくるとは思にくい。むしろ、もし GAD (Gender and Development-開発過程の中での女性の役割を見直し、活動展開を図ろうとするもの) の視点を盛り込んで事業展開を行うのであれば、この時点で女性をいきなり研修に参加させるのではなく、女性が農民グループに参加しにくい状況を分析し、村で展開する赤分葱事業に女性が参加する余地はあるのか、また女性は参加することを望んでいるのか検討した上で、事業の方向性に修正を加えた方がよいだろう。

《市場修復事業》

市場修復事業は基本的には完了した案件として捉えられ、今後の維持を住民に任せることになっている。また担当分野である市場調査隊員も赴任期間を終了し、帰国しているために、フォローアップ計画も今ま

では予定として考えられていなかった。

しかし、今回評価会議の最中に住民が問題として取り上げた事柄の中には、JICA へお願いされた事柄も含まれている。例えば、塀をつくるための資材などがそれである。また会の中で、どのような役割分担が望まれるか住民に話し合ってもらった時にも、アクターには JICA の存在が挙げられていた。これは会議の運営上、あえてお願いされる立場としての JICA を否定して実施したわけではないから、このような意見が出されても不思議はないが、例えば自助努力という観点からしてみれば、こうした発言が出てくるということは、市場の維持に関して住民が完全に自立を達成しているわけでもない、ということが少なくとも言えそうである。先の効果で挙げた所有者意識は暗に自助努力への発展を示唆したものであったが、たとえ一部の住民には既に所有者意識が芽生えていたとしても、それは対象住民の全てが自助に向けて意識が醸成されたことを意味しないことには、注意が必要である。

住民によって出されたお願いを援助として支援することが、自助努力の点から見ていった場合に相応しい対応ではないことは明らかであるし、実際問題として、予算の振り分けも市場修復事業に関しては計上されていないのであるから、ものとしての支援を続けることは妥当ではないが、しかしこうした現状において、全く後の維持を住民に任せるのも、携わった者として妥当な選択ではないだろう。

今後の展開においては、市場の利用状況に関するチェックを適宜行い、住民がより主体性を持って維持していくようなバックアップが必要になってくるのではないかと。特に「道が壊れた」、「市場に水がない」といった住民の努力だけでは実現が難しい問題は、どこに働きかけ、住民達では何を留意すべきなのか、「塀がない」「市場が汚い」といった問題はどのようにしたら解決が可能なのか、住民同士で考え合う機会を意図的に用意することが好ましいと思われる。またこれをもし JICA が直接行わないのだとしたら、イ側担当機関である BAPPEDA もしくは PU に対して、働きかける努力は最低限必要となってくるだろう。

《灌漑事業》

灌漑事業では今年度建設が予定されているジャンガエ地区に対する課題を提示したい。

今回の評価会議の中で、事業で採られたシステムについて住民の意見を聞いた結果によれば、概ね支持されていたといえるが、他方では「労働力を提供するのにお金も出すのはおかしい」「前は良かった。でも次ぎはいや」という意見が寄せられていたことも事実である。灌漑事業はその立ち上がりの当初から、住民による労働拠出と一部負担金拠出に対する抵抗が強い分野であり、担当者の苦勞も一際であったと想像されるが、これがなぜ市場修復や生活用水と異なり、抵抗が強いのか要因を少し探してみたい。

まず思い付くのは『ニーズの高さの相違』である。一般的に、ニーズが高いものには、少々の代償を支払っても人はニーズを満たしたいと思うだろう。逆にもしニーズが高くないのであれば、代償を惜しむだろうというのがこの考え方である。

次には『支払う代償の高さ』である。灌漑事業では一件あたりの拠出金額は市場修復や生活用水とそれほどの違いがないが、労働面では比較にならないほど多大な労働を提供しなければならない。どれだけニーズが高いとしても、その代償を負担する嫌悪感が強ければ、人は合理的判断に基づき、ニーズ実現をあ

きらめ、代償を払わないことを選択するだろうというのがこの考え方である。

『慣行システムへの執着』も考える理由の一つである。従来の地方政府のやり方は、灌漑施設建設に関して住民負担を求めず、工事を無償で実施していた。本チームプロジェクトは「住民参加型開発」を推進する観点から、施工プロセスに住民を巻き込んでいくやり方を採っているが、これが直接的には住民にとって効果と認識されにくい状況は、前項の市場修復事業や生活用水事業のもたらした効果の中で見てきた通りである。カツガ集落においては、他集落と異なりこの点で、慣行システムに強い執着心を持っていることも可能性としてはある。(但し、以前国際 NGO である CARE の行った生活用水プロジェクトでは、住民による労働拠出は結果的には受け入れられている。→プロセスの中で抵抗があったか定かではない)

さらに考えられることは『相互抑制する要因に乏しい』ことが挙げられる。市場修復事業にしる、生活用水事業にしる、受益者は一律に労働参加と拠出金を求められており、労働参加はその受益者層によって賄われていたいわゆる、受益者皆のものを受益者皆でつくった事業であった。しかし、灌漑事業の場合には受益者のみの労働拠出に頼っているのではとても期間内に終了させられる事業ではないので、受益者外からも労働提供者を集め、彼らには受益者から集められた資金を労賃として充てていた。そこで例えば前者では「お金を払うことは皆してる。その上皆が労働参加しているのに、あなたが労働参加しないのはなぜ」という言い方が積極的に参加している住民からは出されてもおかしくないし、参加をしなかった者も「皆がしているのに、自分が参加しないのは「恥ずかしい」「気まずい」という意識を持つことで、ある程度相互に牽制しあうことが可能である。しかし、後者においては基本的に受益者層と受益者以外の層が違ふわけだから、受益者が「もう俺はお金払った。働いて儲けるのは君の仕事」と言ってしまうと、それ以上の影響は誰に対しても与え得ない。よって、灌漑事業のような受益者が特定されている事業においては労働参加が達成されにくいとも考えられる。

以上、ざっと考えてみたが、実際のところカツガ住民の一部受益者がどのようなことを理由として住民参加型を拒んでいるのかについて確信を持つには、さらに情報収集が必要であろう。ただ、いずれにしる、押し付けられた住民参加は住民にとっても、ドナーサイドである JICA にとっても決していい結果はもたらさない。よって、今後の課題としては、まず住民参加の理解をどこまで住民と JICA 双方で共有できるか、ということが挙げられると思われる。

また実際の施工物をどのような構造にしていくかについても、住民の意見をよく汲み込んでいくとよいと思われる。今回出された住民の意見としては堰をつくり直すのではなく、ポンプ揚水による改修を望んでいたが、ポンプ揚水による利点・欠点を将来的な維持管理まで見据えて住民とよく話しあうことが望まれる。

さらに、ワパン地区の事業終了形態が一部の住民にとっては見えにくいものであり、参加者の一人は執拗にそれにこだわって不満を述べていたことから、意見を共有していくことの大切さが言える。

《生活用水事業》

今回の評価会議によって、住民参加型プロセスをとることで、維持・管理面において住民が一定の能力を獲得するのに役立ったことが把握できたことは既に述べた。

しかし他方では、既に発生している問題がありながらも、こちらが意図的に場を用意しなければ、自ら解決に向かってアクションをとらなかったことが指摘されてよいだろう。今年度施工継続が予定されているが、集落を除いては、基本的に本評価会議中に挙げられた問題は、全て住民自身によってクリアしていくことが望まれているが、その為の意識がまだ醸成されたとはいえない。よって今後も引き続きフォローアップしていく必要がある。

その際、特に注意しなければならないことは、ここの住民は機構づくりには長けているが、実質内容のないものも多いという点である。住民に組織作りを任せると、彼らは経験的理解としてグループ長とグループの補佐と会計役を選出し、グループのメンバーとなるリストを作成するが、それぞれがどのような役割の中で、どのような責任を有しているか、理解していない場合も多い。報告者が担当したF村集落においても名前としての維持・管理委員会をつくるのにはさほど時間がかからなかったが、それが実際に維持・管理費の回収などを行う機能的集団として動くには、こちらからの働きかけを待つばかりであった。彼らいわく「最も大事なことは次の乾季であり、それまでは様子を見ようと思っていた」ということであるが、その時は「住民が皆で決めた維持・管理費回収が今月から開始のはずだったので、もう始めたほうがよいのでは」という提案をし、それが受け入れられる形でやっと始まった。このように、組織をつくることで通常無意識のうちに期待してしまう一定の役割は、ここの住民にとってはそれだけでは意味をもちにくいものである。もっと実際の問題意識に結びつくようなアプローチが採られなければ、「プロセスは住民参加だった。維持・管理の技術面でも問題はなかった。維持・管理費も集めた。でも結果的に今は使われていない」ということが将来的に起こらないとも限らないだろう。

よって、維持・管理委員会を中心とした受益者がさらに意識の上で主体性を持てるように、また意識が高まったところでそれが態度に結びつくような具体的手段を熟知できているような状態（empower された状態）にしていくことが、今後の課題である。

さらに、もしそれをより発展的に述べるとするならば、施設が建設されたこと自体では住民の満足度が高くなっていない現象が起こっている現状では、維持・管理とは施設を今ある状態に保つのではなく、住民のもつ主体的想像によって、施設を満足できる状態に変化させる工夫がなされていくことも含めたものとして捉え、そのための支援をしていくことが求められる。

添 付 資 料

添付資料

チミン集落

<生活用水事業>

1A 活動に参加した際の問題・困難
 農作業との仕事調整が難しかった
 家事との調整が難しかった
 活動で要求されている労働は大変だった
 天候がいつもよくなかった
 抛出金の負担が大変であった

選択肢に賛同した述べ人数

20名
 4名
 6名
 5名
 1名

1B 上記問題を解決するよい方法は
 本当はそんなに大変な問題はなかった
 Rp30000もそれほど高くはない

2A 活動参加することでどんなことを期待していたか
 日常の取水労働を削減
 日本人と協働への興味
 衛生的な生活用水の取得
 知識の向上
 その他

選択肢に賛同した述べ人数とその選択理由

13名 理由:もう川にいかななくてすむように
 1名 :日本人と意見交換を試みたかった
 1名
 7名 :施工知識を身につけたい
 1名 :家事労働以外で外で仕事をする機会が欲しかった

2B 上記の期待は活動参加によって達成されたか
 ねじ切りなど特殊技術が身についた
 もう川に取水にいていない
 外で働き、健康にもよい

3 事業に対する満足度

回答数20人
 POINT5- 4人 POINT8- 5人
 POINT9- 1人 POINT10- 10人

POINTの低い理由

皆が一緒に使用すると水の出が悪くなる
 今は雨季だからよいが乾季にどうなるか不安である
 個別配管ではないので面倒くさい
 雨の強い時はきれいな水がでない

バラッカ集落

1 ○○事業とはどういうものですか

<バリ牛普及事業>

バリ牛の援助があること
 5年間に4頭の牛を返却すること
 頻繁に会議(病気について)が行われるもの
 rumput gajahを植えるように要求されるもの
 バリ牛に注射をすること
 JICAよりモニタリングが行われるもの
 1集落に20頭の牛
 3頭死んだ
 仔牛の総数は6頭
 家畜用スプレー投与
 牛はJICAから肥育は住民
 もし仔牛が4頭産まなければ返却しないでよい
 もし3年間で仔牛を産まなければ、雌牛を交換できる
 もし成果があったら子ども家族の学校用費用を貯えることができる
 バリ牛の個体重を増やすこと

回収した用紙で用いられていた原語

Ada bantuan sapi
 Pengembalikannya 4 ekor selama 5 tahun
 Sering diadakan pertemuan(penyuluhan) tentang penyakit
 Disuruh tanam rumput gajah
 Biasa diadakan pengobatan pada sapi(disuntik)
 Biasa diadakan memonitoring oleh JICA
 Sapi 20 ekor 1 dusun
 Meninggal 3
 Jumlah anak sapi 5 ekor
 Penyemprotan hewan
 Sapi dari JICA dipelihara oleh masyarakat
 Jika tidak berhasil, tidak dikembalikan
 Jika tidak berhasil dalam jangka 3 tahun, sapi diganti
 Kalau berhasil dapat menbiaya sekolah anak-anak dan keluarga
 Menggemukkan Sapi Bali

<市場修復事業>

床、柱、屋根、塀を直すこと
 沢山の人が労働参加した事業

Lantai, tiang, atap, pagar diperbaiki
 Banyak tenaga kerja ikut proyek(dari 50 orang sampai 100orang)

添付資料

資材はJICAが準備
住民が150000Rp支払うもの
住民が喜ぶためのもの
もし商人がいれば簡単に売れる
コントロール方式でJICAと住民で建設

2 なぜその事業に参加/不参加したのか

<バリ牛普及事業>

・参加

前の牛援助が良かったので
牛を飼いたかった
経験を増やしたかった

・不参加

本当は参加したいが、まだ牛を持っていない人がいる
ので彼らが先に分けられた

<市場修復事業>

・参加

皆の重要事なので
市場がよくなるのを見たかった
売買を容易にするため
経済の活性化の一助

3 住民とJICAの共同方式はどんなものか

<バリ牛普及事業>

注射をするために牛を山から捕まえる
rumput gajahを植えた
それぞれで牛舎の建設
予防注射用牛舎の共同建設
3ヶ月に1回虫除けスプレーをする
JICAはビタミン剤を与えてくれる
JICAが見回りに来た時に、どの草が餌として好ましいか
尋ねる
JICAが頻繁に来てくれて嬉しい
活動に参加していない人にも薬をくれてありがたい
JICAから肥育法を指導してもらえる

住民もバケツで餌をやったり、よい場所に連れていったり
して、よく管理している

<市場修復事業>

住民はコントロール
お金は150000Rpが住民
住民とJICAで会議を開催
費用と資材をJICAが負担

4 活動の結果(成果)

<バリ牛普及事業>

1頭仔牛が産まれた
死んだのがある
まだ2年しか経ってないので判断できない

<市場修復事業>

やっと建て小屋から市場になった

Bahan-bahan JICA yang punya
Pihak masyarakat membayar sebanyak Rp150000
Untuk masyarakat agar senang
Kalau ada dagangan masyarakat mudah dijual
Pasar dibangun secara gotong-royong bekerjasama dengan JICA

Pernah merasakan manfaat sapi bantuan dulu
Ingin memelihara sapi
Mau menambah pengalaman

Mau ikut tapi ada yang belum punya sapi jadi mereka duluan

Kepentingan bersama
Ingin melihat pasarnya baik
Mendahkan menjual dan membeli barang
Membantu kelancangan ekonomi

Mengambil sapi untuk disuntik
Menanam Rumput Gajah
Membuat kandang sapi
Membuat kandang jepit(gotong-royong)
Jangka waktu 3 bulan sapi disemprot
JICA memberikan obat cacing
Saat orang JICA datang biasanya masyarakat bertanya sapi rumput
apa yang biasa dikasihkan
Merasa senang karena orang JICA sering datang melihat-lihat sapi
Yang belum dapat sapi juga senang karena sering dikasi obat oleh JICA
JICA memberikan penyuluhan bagaimana cara mengembangkan dan
mengemukakan sapi
Masyarakat pun menjaga sapi dengan baik. Dengan ember manakan
yang baik, tempat yang baik.

Perbaikan pasar dilakukan secara gotong-royong
Sebanyak Rp 150000 dari masyarakat
Musyawarah bersama masyarakat dengan JICA
Biaya dan bahan dikasi oleh JICA

Sudah beranak 1 ekor
Sudah ada yang mati
Belum karena baru 2 tahun berjalan

Dulunya pondok tapi masyarakat akhirnya tercapai karena pasarnya
sudah bagus

添付資料

取り引きが円滑になった
必要なものが遠くに行かなくても買えるようになった

5 事業の問題点

<バリ牛普及事業>

まだ仔牛が産まれていない
田植えの時期は牛用の草に限りがある
死んだ牛がいる
病気がちであるがJICAの場所も違い
貸与された牛はまだ若い

<市場修復事業>

橋が壊れたので流通が困難
まだ塀がないので家畜が進入する
販売人がまだ少ない

6 事業に対する満足度

<バリ牛普及事業>

回答数 11人
POINT2- 1人 POINT5- 1人 POINT6- 1人
POINT7- 4人 POINT9- 1人 POINT10- 3人

<市場修復事業>

回答数25人
POINT5- 14人 POINT6- 1人 POINT7- 1人
POINT8- 2人 POINT9- 1人 POINT10- 6人

Proses jual beli sudah lancar
Tidak jauh membeli barang yang diperlukan

Sapi dari JICA masih ada yang belum beranak
Pada musim tanam padi makanan sapi terbatas
Sapi ada yang sudah mati
Sering sakit tapi tempat JICA jauh
Sapi bantuan masih muda

Proses transportasi terlambat karena jembatan rusak
Belum ada pagar sehingga hewan sering masuk
Penjualnya masih kurang

添付資料

ガルン集落

1 事業に対する満足度

<生活用水事業>

回答数36人

POINT4- 1人 POINT5- 6人 POINT6- 7人

POINT7- 16人 POINT8- 4人 POINT9- 1人

POINT10- 1人

POINTの低い理由

水源周辺にBAKを作る必要がある

各家庭の水使用量がわかるようになっていない

全家庭にクランが必要である

まだ昔のパイプと取り替えられていない部分がある

<新種野菜普及事業>

回答数36人

POINT1- 3人 POINT2- 13人 POINT3- 8人

POINT4- 6人 POINT5- 6人

POINTの低い理由

まだ期待されるほどの成果が得られていない

自分はメロンを栽培していない

メロンは気候に合っていない

土壌条件が悪い

広い対象層に普及がされていない

種子が悪い

栽培指導をもっとして欲しい

<農民研修事業>

回答数36人

POINT2- 18人 POINT6- 10人 POINT7- 8人

POINTの低い理由

現実性の低い研修内容であった

研修が現在中断されている

広い対象層に研修を実施するべきである

女性も研修に参加できるようになっていない

2 POINTが10になる(満足)為には何が必要であるか

<生活用水事業>

水を清潔にするための水槽が必要である

水源周辺には18m4インチパイプでつなぎ、それから2インチパイプをつなぐとよい

水利用メーターをとりつけるべきである

取水槽1に通ずるパイプをとりつけるべき

水を浪費したものは罰金

古いパイプを新しいのと取り替える必要がある

回収した用紙に用いられていた原語

Harus membikin bak air untuk penjernih

Di mata air harus mempunyai line 18m baru pakai pipa 2 inc

Harus ada km air supaya masyarakat tahu banyaknya air yang digunakan

Masih perlu penambahan saluran ke bak pertama

Yang memboros air didenda

Pipa yang lama harus diganti dengan pipa yang baru

<新種野菜普及事業>

もっと広い住民相手に普及活動をする必要がある

この土地にあった種子を購入するべき

他の作物も試してみたい

土壌試験を実施するか、メロンの合う土地を特定する

厩肥のつくりかたの指導が必要

農薬の適性使用

Memberikan penyuluhan pada masyarakat karena masih banyak yang belum mengerti

Diberikan bibit yang cocok ditanama disini

Ingin mencoba menanam tanaman yang lain

JICA harus menempatkan tanaman pada jenis tanam yang cocok

Pembuatan kompos secara menyeluruh

Obat-obatan yang tepat

<農民研修事業>

赤分葱の研修に付けてよかったので十分満足

研修は継続的に実施されるべき

女性も研修参加の機会が欲しい

Merasa cukup atas adanya pendidikan tentang bawang merah

Studi Banding diinginkan diteruskan

Supaya perempuan juga bisa ikut studi banding

添付資料

バリ集落

1 事業に対する満足度

<新種野菜普及事業>

回答数22人

POINT1- 3人 POINT2- 1人 POINT3- 6人

POINT4- 7人 POINT5- 3人 POINT6- 2人

POINTの低い理由

甘くない

生産性が悪い

JICA担当者の帰国があった

種子が悪い

メロンが小さい

肥料・農薬投入量が少ない

市場に関する情報の不足

成果

以前に知らなかった作物の

生産方法を知った

JICAの適切な指導があった

トラクターを使用できた

<市場修復事業>

回答数25人

POINT4- 7人 POINT5- 9人 POINT6- 4人

POINT7- 3人 POINT8- 1人 POINT9- 1人

POINTの低い理由

市場を囲む塀がない

市場に水が届いていない

市場の売り場が完成していない

市場に通じる道が悪い

魚を売る売り場がない

屋根が壊れている

市場が清潔に保たれていない

成果

JICAに満足している

遠くで買い物する必要が減つ

<バリ牛普及事業>

回答数25人

POINT1- 5人 POINT2- 1人 POINT3- 3人

POINT4- 3人 POINT5- 3人 POINT6- 1人

POINT7- 3人 POINT8- 1人 POINT9- 1人

POINT10- 3人

POINTの低い理由

牛をまだ貸与されていない

牛がまだ妊娠していない

牛を放牧するので畑が荒らされる

牛が痩せている

肥育が不足している

成果

牛が太った

牛が妊娠した

JICAは大変よい

2 POINTが10になる(満足) 為には何が必要であるか

<新種野菜普及事業>

JICAによる集中的な指導が必要である

トラクターを継続的に利用可能にする

優良種子を導入する

市場情報をたくさん提供する

生姜・唐辛子など他作物の試験栽培

メロンは5月に植えるのがよい

改善策への住民の自助努力とJICAへの依頼

<市場修復事業>

市場を囲む塀の準備

残された売り場の早期建設

この為に、労働力はもう用意されているということ

(ちなみに上記の売り場とは住民達が自ら建設をやりかけている部分でJICAが協力してつくった部分ではない)

販売人の調整

市場を清潔にする

清掃日をモスクで、お知らせをしたらどうかという意見

<バリ牛普及事業>

貸与牛の頭数を増やす

JICAによる集中的な指導の実施が必要である

よい餌をやる必要がある

粟の投与が必要

普及事業がDINASによって引き継がれていく必要がある

牛舎の建設

この為には、草の種子選びからきちんとやる必要ありとの意見

この為に、住民は土地を用意するので、材料をJICAに手配して欲しい旨提案される

添付資料

ベレマリホ集落

<生活用水事業>

1 現在の問題の再確認

拠出金の未払い者がいる

水が不足している

ストップクランを閉めないことが度々ある

タンクの位置が高すぎる

維持・管理費の支払が始まっていない

備考

2 現在の問題点の解決案

未払い者について

水利用について

未払い者は早急にRp50000を払うこと

水のpotential自体が問題なのか、利用法が問題なのか？

！ 水のpotentialとしては、必要十分なだけあるはず

パイプ途中で勝手に穴を空けた人がいる？

！ メンバーの許可はとったが、確かに空けた

穴があるので、なかなかタンクに水が溜まらない

3 問題点の整理と解決策

今後パイプに穴は当面空けないことにする

水量自体を多くするために、パイプの太さを太くする

タンクの土台を低くし、水が流れやすくする

維持・管理費については本日より開始する

未払い者は早急に支払いをすませる

パンゲ集落

<生活用水事業>

1 事業に対する住民の満足度

回答数33人

POINT1- 3人 POINT2- 1人 POINT3- 6人

POINT4- 3人 POINT5- 1人 POINT7- 4人

POINT10- 15人

POINTの低い理由

水が流暢に流れない

成果

水が流暢である

2 現状の再確認

タンク1には2incで水が入り、1incで出て行く。同様に、

タンク2には1incで水が入り、0.5incで出て行く。

よって、タンクからは水が溢れているが、各戸には十分に水が行き届かない。

また地勢によって水の流れやすいところと、流れにくいところがあり、差が顕著である。

3 問題の解決案

タンク2から4に通ずるパイプを太くする

時間によって利用できる区域を区切る

解決案への住民意見

お金がないので、現在回収している維持管理費が十分溜まるのを待つ

本当に効果的であるのか、再度検討する必要がある

添付資料

バンガバンガ集落

＜バリ牛普及事業＞

1 集落地図を用いた季節別肥育場所の確認
省略2 バリ牛を肥育する目的の確認
収入を向上する為3 収入を向上させる為に、必要な手段
現在飼育している牛が子どもを産む
牛の個体重を増やす4 牛が子どもを今まで産んでいない理由の確認
牛の年齢が若い
雄牛と雌牛の交配機会の不足5 子どもを産みやすくするため、個体重を増やすために
住民ができる努力とは
よい食事を与える
特に乾季に交配機会を増やす

質問の間に住民間で話し合われていた内容

雄牛に対してJICAから援助はできないかという要請あり

雨季には牛は山の中で細にくりつけられ、飼育されることから、牛の餌は足りなくなる傾向にある。また細にくりつけ、自由に動けなくなることで、の交配機会が減る。雨季は妊娠にも適していない時期なので、乾季には集落周辺に放し飼いにし、交配機会を増やしている。
牛の妊娠期間は通常9ヶ月なのである年の乾季に妊娠が始まれば、次の年以降は、交配期間も含め、毎年乾季に妊娠が可能となり、適している。餌を牛舎飼いにし与えつづけることは、難しい。なぜなら雨季には田作で忙しいので。

添付資料

ケレンゲ集落
<山羊銀行>

雌山羊が妊娠したのを理解した
 雌山羊が発情したのを理解した
 山羊の妊娠期間を把握した
 山羊に役立つ草の区別できる
 気候による飼育場所区別できる
 グループ飼育の習慣身につく
 仔山羊への授乳法理解した
 山羊の病気の原因理解した
 山羊の市場動向を把握した
 山羊飼育が面白くなった
 山羊が病気をしなくなった
 Kerras Isianを記入する習慣ついた
 月例会には毎回出席した
 JICAは適切な山羊をいれた
 JICAの巡回頻度は十分
 JICAは質問に熱心に回答した

YES	NO
()内受益者	
1(1)	11(7)
12(8)	0
1(1)	11(7)
12(8)	0
12(8)	0
12(8)	0
12(8)	0
12(8)	0
0	12(8)
11(8)	1(0)
12(8)	0
12(8)	0
12(8)	0
12(8)	0
12(8)	0

備考
 乗り合いをする
 腹が大きくなる、乳が大きくなる
 母乳がでる(乳が大きくなる)ようになってからどれくらいかはわかる
 対処法はある程度わかるが、原因は理解していない
 商人が直接やってくるので、自分からはあまり情報収集していない
 子どもが欲しい…
 よく食べるけど、痩せている

添付資料

ワケ集落

<山羊銀行>

1 もし山羊以外の活動があつたら参加するか

	YES	NO	備考
鶏	10	0	小さくて飼いやすい。一人で飼育が可能であるし、敷地内で行える。
馬	0	10	大きくて難しい。男性なら欲しいというだろう。
牛	0	10	女性には難しい。
裁縫教室	10	0	大勢で楽しくやった方がよいので、グループがよい、但しミシンがあれば。
料理教室	10	0	JICAに材料を用意してもらいたいが、実際の活動はグループでよい。
栄養講座	4	6	もう十分栄養はある／もっと知識を増やしたい
野菜栽培	0	10	場所もないし、鍬を振り回すのも苦手
美容講座	10	0	もっと美しく…

2 山羊銀行プロジェクトに参加した理由は

	YES	NO	
山羊が欲しかった	8(5)	0	
組織が興味深かった	8(2)	2(2)	一人だと飼う自身がなかった／意見が食い違っていた
友達に連れられて	0	8(5)	
しようがなく	0	8(5)	自分で決定した
仕事ないよりよい	8(5)	0	
飼育知識向上したい	8(5)	0	
日本人の活動に興味	0	8(5)	
飼育簡単だと思った	8(5)	0	
援助が欲しかった	8(5)	0	

3 なぜ山羊銀行プロジェクトは終了したのか

	YES	NO	
組織がよくない	8(5)	0	
山羊がよくない	8(5)	0	地元の山羊でなく、気候と適していなかった
飼育時間がなかった	0	8(5)	
指導がよくなかった	0	8(5)	十分な内容であった
指導頻度が不足していた	0	8(5)	
やめさせられた	0	8(5)	
飽きた	8(5)	0	よく死ぬし、子どもが産まれないので飽きた
JICAのやり方が合わない	8(5)	0	グループ飼育ではお互いに過度の期待をしてしまい、よくない
飼育が難しかった	8(5)	0	餌よりの草がなかなか手に入らなかった／私は給餌したが他の人は違った
個人利益がない	8(5)	0	
友人も参加を止めたので	0	8(5)	

4 山羊銀行プロジェクトへの印象

家事以外の仕事は楽しかった。初めは友人との活動が楽しかったが、活動が始まってからは、それがそぐわなくなってきた。

JICAの指導によって、例えば病気になったら注射する、眼病には伝統薬を利用するなど知った。

雨季には十分な草があるが、乾季には不足するので飼育が難しかった。

ワケでは女性は男性(夫)や子どもに仕事を期待することが多く、自分の仕事は家庭敷地内にあると、考える傾向があるため、山羊飼育はワケには適していなかったし、ましてや一人が5頭を飼育するのは適していない。もし一人が1頭づつであったり、プロジェクトが男性対象に行われていたのであれば、成功していたかもしれない。

添付資料

カレンゲ集落

＜落花生優良種子普及事業＞

1 落花生優良種子普及事業に参加した理由	YES	NO	備考
品質のよい種子が欲しかった	12	0	とても欲しかった
返却システムに興味深かった	12	0	
友達に連れられて	0	12	
しょうがなく参加した	0	12	
他に仕事がなかったから	12	0	全く仕事をしないよりは、種子も借りれるし、畑仕事をした方がよい
栽培知識を向上させたい	12	0	
日本人の活動に興味	0	12	というよりは、参加しなければ種子がもらえないから
商人よりもよい返却率だったので	12	0	JICAは借りた分だけ返却すればよいのでよかった
一番の参加動機は？			一番は品質のよい種子が欲しかったからで、その次が返却利率の良さ よい種子を用いて、収量を増やしたかった
2 落花生優良種子普及事業に対する印象	YES	NO	
JICAの指導内容が適切だった	10	2	まだ収穫適期前なのに、収穫をJICAから迫られた
JICAの指導頻度は十分だった	10	2	
種子がよかった	0	12	いいのもあったが、悪いのもあった。悪い種子はまだ十分乾燥されて いなかった。発芽してこなかった種子に関しては、住民はアレジャン集落 で買い直し、植え直しを行った。 JICAの種子が発芽しなかったため、その分の補償金を貰えないか
栽培環境は良かった	12	0	
個人利益があった	12	0	10カルン分植えたら、10カルン分は保持できた
栽培知識を向上できた	12	0	経験が増えたとし、今までは石灰や農薬を使ったことがなかった
落花生の食味はよくなった	12	0	
一番の問題は？			種子がよくないこと。また天候悪化と、虫や猪による食害 種子は収穫した後に、幹からすくにとりはずすのではなく、そのままの 状態で乾燥させれば、半年は保存可能だ 最適の月(11月と3月)に種子を貸与してくれればシステムはうまくいく だろう 例えば6村(チーム対象村)のそれぞれの気候にあった時期に、貸与 していけば、保存期間の問題もなくなるだろう 私たちはジャワからの優良種子を栽培したいので、JICAも是非手伝って 欲しい
その他			もしできるならば、前回のようではなく、収穫はもっと遅らせるべき

＜灌漑事業＞－ジャンハエ地区

1 灌漑事業の印象について	YES	NO	備考
建設知識が向上した	9	0	
拠出金には賛成であった	9	0	
労働提供には賛成であった	8	1	お金を集める上に、労働提供をしなければならぬので疲れた
地元資材を活用するのは賛成である	0	9	JICAがよそからすべて買ってくれた
日本人と活動できて楽しかった	9	0	
終了後、維持管理の動機が湧いた	9	0	崩壊前には、維持管理への欲求もあったが、崩壊してしまっただけからはその気 も失せた。住民だけで改修するには費用がかかりすぎて大変だ。 JICAが手伝ってくれるように要請したい もしJICAが手伝う気がないのだったら、灌漑施設は何の利益にもならないだ ろう。
崩壊前は収量増加があった	9	0	収入は向上した
崩壊後、すぐに改修したいと思った	9	0	直したいが、JICAにも協力をお願いしたい
一番の問題は？			灌漑施設が既に壊れてしまっていること

添付資料

<灌漑事業> - トバン地区

1 灌漑事業の印象について	YES	NO	
建設知識が向上した	6	0	
拠出金には賛成であった	6	0	
労働提供には賛成であった	5	1	
地元資材を活用するのは賛成であった	0	6	現場近くにはよい材料がないのに、回収・運搬して疲れた
問題点について			<p>資材の回収・運搬に関しては馬の使用を認めて欲しかった。</p> <p>情報がきちんと行き渡らないまま、事業が終了していた。JICAはことある毎に住民会議を開催して、事業を計画したりしているが、今回の場合についてはそれがなかった。本当ならば、会議を開催して、継続するか中断するかを住民と話し合うべきであった。</p> <p>自分達が運んだ材料がいつのまにかよそで使われることになっていた。</p> <p>JICAが勝手に撤退したのであって住民は継続したかった。</p>
その他			<p>またトバンで新規につくるよりは、ジャンハエの改修を行った方がよい。</p> <p>再度ジャンハエで行う際には、堰を造り直すのではなく、ポンプを使ってみたいのだが、どうだろうか。</p>